

## 吉田財団設立40周年記念事業

## 令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一 殿

学校名	福岡県立久留米聴覚特別支援学校
学校長名	早川 就
報告者	中島 裕子
寄贈品	1.図書情報管理システム一式(情報ボックス、サポートパック、データ変換含む) 2.デスクトップパソコン一式(タワー型本体、モニター、USB ケーブル) 3.カラー複合機 A4
《振り返り》	
教育的課題	1. 図書館システムの老朽化と機能不足 2. 読書意欲の停滞と読書習慣の個人差の拡大 3. 探究学習における資料検索の効率性
教材活用の狙い	1. 蔵書のデジタル化によるアクセシビリティの向上 2. 体系的な情報収集スキルの育成 3. データに基づく読書指導の実現
目的達成の為の工夫	1. 情報提供環境の構築 2. 幼児児童生徒がアクセスしやすい場所への設置 3. 個別ニーズに合わせた教材作成
《教材活用の効果・成果》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1. 蔵書の可視化と検索性の向上 2. 探究学習における資料アクセスの迅速化 3. 読書意欲の喚起と図書室利用の活性化 4. 図書委員会の活動内容の高度化・効率化 5. データに基づく組織的な選書体制の確立
対象者・利用頻度	1. 対象者:全体幼児児童生徒(48名)及び教職員 2. 利用頻度:休み時間及び総合的な学習の時間や国語科の授業時(毎日)
目的達成状況	1. ネットワーク環境の整備を並行して進めている段階であるが、システムに触れる機会を設けることで児童生徒のICT利活用能力の向上に寄与している。
教育的効果についての所見等	本システムの寄贈により、本校図書館が情報の検索・選択・活用を学ぶ自律的学習スペースへと進化する機会となった。現在は接続環境の最終調整中だが、児童生徒がシステムに高い関心を示し、自発的に検索しようとする姿からは、今後の自律的な学習態度の変容が強く期待できる。本システムは、本校の教育活動を支える重要な学習基盤として定着していくと確信している。

## 活用状況の写真等(当日の様子など)

1. 「図書館祭り」において、幼児児童生徒に寄贈いただいたシステム等を紹介する様子



2. 最新の端末に興味津々で触れる児童生徒の様子



### 今後の活用見通し・課題

今後は、本システムを最大限に活用し、教科横断的な探求学習をより一層推進していきたい。また、ICT 機器を活かした視覚的なアプローチにより、読書習慣の定着に格差が生じている現状を改善し、全ての幼児児童生徒が自発的に本に親しめる環境づくりに尽力する。教職員の運用能力向上を図りつつ、この充実した情報活用環境を本校の新たな学習基盤として定着させていく。